

上下水道の復旧急げ！

岩手・宮城 内陸地震 栗原市、奥州市で調査進む

14日に発生した岩手・宮城内陸地震。発生から1週間が経過し、上下水にかんづいてきた。水道で被害が大きかったのは栗原市（総断水戸数3114戸）と奥州市（同14



奥州市での復旧作業（写真提供＝日本水道協会）



栗原市の鶯沢地区でマンホールが浮上（写真提供＝国土技術政策総合研究所）

20戸）。栗原市では仙台市、石巻（企）、登米市、気仙沼市などが給水車による応急給水を実施している。日本協は16日に栗原市、奥州市に職員1名ずつを派遣。被害状況の調査にあたっている。栗原市は合併により16箇水

1 上水道を運営している。地震の影響で水源から取水できなくなった地区があり今後の対策を協議。奥州市では水源（湧水）から浄水場までの導水管が破損したが現在は復旧している。

一方、下水道は国総研、

下水道機構が栗原市の管渠を調査。鶯沢地区を中心に約70箇所のマンホールの隆起が確認された。日本下水道事業団は岩手県北上川上流域下水道の水沢浄化センターを調査。濃縮槽汚泥掻き寄せ機、1次消化タンク汚泥

掻き寄せ機が故障して停止しているが別系統で運転中。栗原市鶯沢浄化センターではOD槽上部のPC蓋が地震によりずれたとの報告が入っている。水処理、下水の流下機能に問題はない。

（関連11画）

平成20年6月23日 水道産業新聞